

1 事業概要

事業名	集落基盤整備事業 下関南部地区
事業場所	下関市（旧下関市、菊川町、豊浦町）
事業主体	山口県
事業期間	平成 20 年度 ～ 平成 27 年度 （西暦 2008 年度 ～ 西暦 2015 年度）
総事業費	1,395 百万円
事業目的	本計画区域は、持続的な農業を創造するため、「にぎわいのある農業・農村『下関南部』」をキャッチフレーズに、「持続的な農業を創造するひと・もの・むらづくり」として「産地を支える基盤整備の推進」「需要に応える産地づくり」、「豊かな自然と優しい人が創る安心、安全のまちづくり」として、「やすらぎのある安心・安全のまちづくり」「こころのかよう安心・安全のまちづくり」をおこない、農村の活性化を図る。 そのため、農業用水路、ため池、暗渠排水、獣害防止柵などの農業生産基盤と集落防災安全施設、自然環境・生態系保全施設などの農村生活環境の整備を総合的に実施する。
事業内容	農業用水路1,109m、ため池8箇所、暗渠排水8.6ha、獣害防止柵33.9km 集落防災安全施設1箇所、自然環境・生態系保全施設385m

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・ 計画変更時 ・再評価時
評価基準年	H25
事業費	1,360 百万円
工 期	H20年度 ～ H26年度
費用対便益比	B/C=1.90

【要因変化の分析】

- ・事業費は約35百万円（2.6%）の増額
- ・工期は1年延伸
- ・計画変更時と大きな変化となる要因はないと考える。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・農業用水路の整備により安定した農業用水の供給、担い手の維持管理労力の節減が図られた。
- ・暗渠排水により担い手の維持管理労力の節減が図られ、畑作物の生産も可能となった。
- ・ため池整備により豪雨時の決壊による被害防止、安定した農業用水の供給、担い手の維持管理労力の節減が図られた。
- ・獣害防止柵の設置により、イノシシ・シカによる農作物被害の軽減、作物生産意欲の向上、担い手の維持管理労力の節減が図られた。
- ・集落防災安全施設の整備により、集落の防災機能の強化が図られた。
- ・自然環境・生態系保全施設整備により、自然環境に触れる場としての機能強化が図られた。

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・本事業の実施により、農業生産や農村生活において、快適で安心・安全な環境に改善され、持続的な農業が可能となっている。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

- ① 自然環境への影響
 - ・特に見受けられない。

- ② 生活・住環境等への影響
 - ・ため池の改修、集落防災安全施設の整備により、安心・安全のまちづくりに寄与している。

- ③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）
 - ・工事実施中において、沈砂池等を設置し、下流へ濁水が流出することを防止した。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

- ① 社会経済状況及び事業環境等の変化
 - ・集落営農法人の設立など、農業の競争力強化に向けた取り組みが行われている。

- ② 関連計画・関連事業の状況の変化
なし

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

(6) 改善措置の必要性

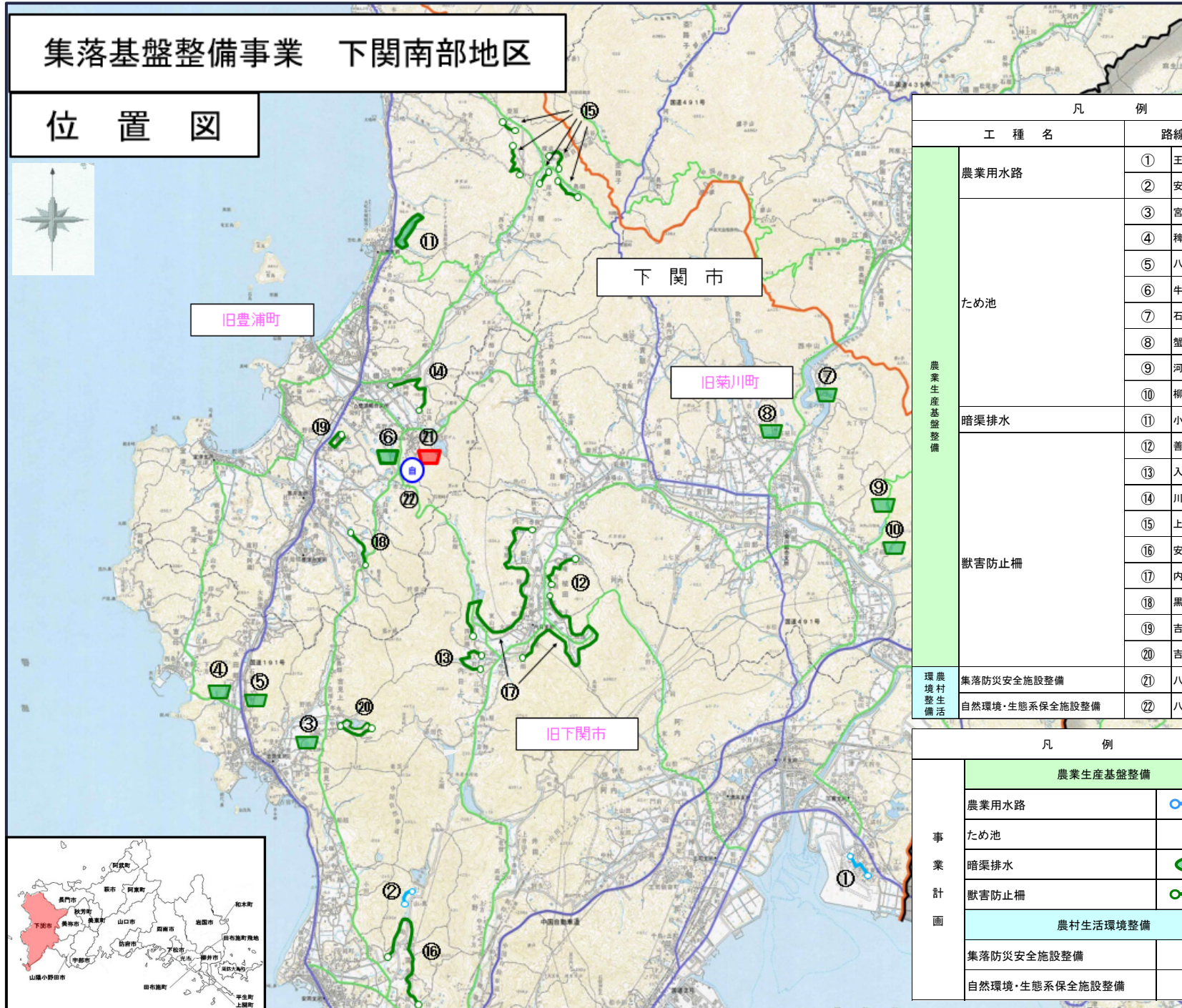
なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

なし

集落基盤整備事業 下関南部地区

位置図



凡 例			
工 種 名	路線名	事業量	
農業用水路	① 王喜	762 m	
	② 安岡西幹線	347 m	
ため池	③ 宮の前新堤	1 箇所	
	④ 稗尻	1 箇所	
	⑤ 八王子	1 箇所	
	⑥ 牛	1 箇所	
	⑦ 石炭	1 箇所	
	⑧ 蟹小路	1 箇所	
	⑨ 河内ヶ浴奥	1 箇所	
	⑩ 柳谷1号	1 箇所	
	暗渠排水	⑪ 小串	8.6 ha
	獣害防止柵	⑫ 善朱庵	1,826 m
⑬ 入野		2,454 m	
⑭ 川棚		2,609 m	
⑮ 上小野		4,565 m	
⑯ 安岡		4,358 m	
⑰ 内日		13,177 m	
⑱ 黒井		1,880 m	
⑲ 吉永		594 m	
⑳ 吉見		2,474 m	
環境・農村整備		集落防災安全施設整備	㉑ 八ヶ尻 1 箇所
	自然環境・生態系保全施設整備	㉒ 八ヶ尻 385 m	

凡 例	
農業生産基盤整備	
農業用水路	
ため池	
暗渠排水	
獣害防止柵	
農村生活環境整備	
集落防災安全施設整備	
自然環境・生態系保全施設整備	